

平成 23 年度第 4 回 産業応用部門論文委員会主査会議 議事録 (案)

1. 日時 平成 23 年 10 月 18 日(火) 13:30-15:30
2. 場所 電気学会本部会議室
3. 出席・欠席者 (敬称略) : D1:3 名、D2:0 名、D3:1 名、D4:1 名、D5:1 名、他:2 名

○出席

竹下 (編修長、名古屋工業大学)、村上 (編修長補佐、慶應義塾大学)、木村 (D1 主査、大阪工業大学)、船渡 (D1 副主査、宇都宮大学、記録)、綾野 (D1 次年度副主査、東京高専)、米谷 (D3 主査、三菱電機)、叶田 (D4 次年度副主査、日立製作所)、亀井 (D5 副主査、三菱電機)

×欠席

森本 (D2 主査、東海大学)、山口 (D2 副主査、リコー)、岩崎 (D2 次年度副主査、名工大)、村井 (D3 副主査、東海旅客鉄道)、野口 (D3 次年度副主査、静岡大学)、道木 (D4 副主査、名古屋大学)、近藤 (D5 次年度副主査、千葉大学)、藤田 (編修広報担当役員、東京工業大学)、奥田 (ゲストエディタ、三菱電機)、佐藤 (ゲストエディタ、千葉大学)、山崎 (ゲストエディタ、千葉工業大学)、南方 (ゲストエディタ、千葉工業大学)

4. 提出資料

- 23-4-0 平成 23 年度第 4 回 D 部門主査会議事 (船渡)
- 23-4-1 平成 23 年度第 3 回産業応用部門論文委員会主査会議議事録 (案) (船渡)
- 23-4-2 電子査読システム運用状況 (村上)
- 23-4-3-1 電気学会産業応用部門英文論文誌特集論文企画書 (村上)
- 23-4-3-2 D 部門英文論文誌特集論文起案書 (村上)
- 23-4-3-3 電気学会産業応用部門英文論文誌「回転機技術」特集論文起案書 (村上)
- 23-4-4-1~23-4-4-5 論文委員候補者推薦用紙 (村上)
- 23-4-4-6 論文委員退任希望 (メール文) (村上)
- 23-4-5 B 判定論文について (メール文) (村上)
- 23-4-6-1 部門大会論文募集分野について (村上)
- 23-4-6-2 部門大会論文募集分野表 (村上)
- 23-4-7-1 異議申立書 (村上)
- 23-4-7-2 異議申立書 (村上)
- 23-4-7-3 異議申立 (メール文) (村上)
- 23-4-7-4 異議申立返送文の例文 (D1 主査からのメール文) (村上)
- 23-4-7-5 「異議申し立て」に対する回答書 (村上)
- 23-4-7-6 「異議申し立て」に対する回答書 (村上)

23-4-8 英文論文誌特集号の依頼論文掲載料の予算措置について（村上）

23-4-9-1 産業応用部門論文誌編修に関する役員申し合わせ（竹下）

23-4-9-2 産業応用部門論文委員会主査会運営要綱（竹下）

5. 議事

5.1 議事録確認

第3回主査会議議事録について、誤記の修正3箇所を指摘の上、承認された。

5.2 電子査読システム運用状況

村上編修長補佐より資料23-4-2に基づき説明があった。

今年の投稿状況はD1 49件、D2 57件、D3 54件、D4 16件、D5 11件である。D1の分類で投稿された論文も内容を見てD3、D5に割り当てているが、D5の件数が伸び悩んでいる。共通英文誌はD1 7件、D2 5件、D3 6件、D4 1件、D5 3件であり伸び悩んでいる。D部門英文論文誌発刊で更に少なくなる可能性が有るが、特に対策は取らない。

5.4 特集号状況確認

村上編修長補佐より特集号の状況について資料23-4-2に基づき報告があった。

J-Rail 特集号は7件採録で成立している。

半導体電力変換特集号も5件採録予定で成立の見込みである。半導体電力変換特集号について英文論文誌でパワーエレクトロニクス特集号を組むので、このまま邦文誌で特集号を組むのは無理ではないか、との意見が出された。これに対し、船渡D1副主査より、今回の特集号について応募件数が少なかったため半導体電力変換技術委員会で次回の特集について議論中である旨の報告があった。

産業計測制御全般特集号については7件決定で成立の見込みである。

5.5 特集号企画

村上編集長補佐より資料23-4-3-1に基づき英文誌「パワーエレクトロニクス」特集号について説明があった。スケジュールが大変タイトなので査読が早く終了するように幹事団に依頼があった。また、特集号には依頼論文を含むことが確認された。

次に、資料23-4-3-2に基づき、英文誌「モータドライブ」特集号について説明があった。日程について事務局に確認の上、正しいものに修正することとなった。

続いて、資料23-4-3-3に基づき、英文誌「回転機技術」特集号について説明があった。ICEMSと研究会の論文を中心に投稿を促すことになっているという説明に対し、英文論文はICEMSからの投稿で賄えると思われる。研究会は邦文論文が多いので、研究会から投稿を促すために邦文誌の特集号も企画した方が良いのではないかと提案があり、回転機技術委員会で検討することとなった。

5.6 紙上討論について

前回主査会議で議題となった紙上討論について竹下編修長から説明があった。質問者から 2 回目の回答で良いとの返答があり、紙上討論が成立することとなった。掲載は早ければ 1 月号の予定である。

5.7 部門英文誌について

資料 23-4-8 について竹下編修長から各特集号の性格と計画について説明があった。依頼論文については掲載料を部門から支出するが、査読プロセスや掲載に当たっては通常論文と同様に扱う。「招待論文」とすると、原稿料を出すことになるので今回は招待論文として扱わない旨の報告があった。

5.8 B 判定論文について

村上編修長補佐より資料 23-4-5 について説明があった。本件は、1 回目の照会事項に無い事項を 2 回目の照会時に追加してしまった点について著者からの指摘である。これは、本来の査読ルールからはずれているので、1 回目の照会事項に追加していけない旨、確認するよう依頼があった。さらに、B 判定後は原則 A 判定で、軽微な修正点は A 判定の付随コメントとするようとの依頼があった。

5.9 部門大会での論文区分について

竹下編修長から資料 23-4-6-1、23-4-6-2 について、論文委員会が 5 グループに再編されたのでそれに合わせて変更したい、との説明があった。審議の結果、磁気浮上と超伝導応用は合体させて LD 傘下に小分類を追加する。静止器はそのまま残し、RM 傘下へ置き小分類を追加する。以上 2 点が承認された。また、関連して全国大会における MD の 6 グループと 8 グループ間の移動についてモータドライブ技術委員会で検討することとなった。パワエレの分類について、船渡 D1 副主査より変更したいとの提案がなされ、D1 幹事団で検討の上、変更がある場合は 2 週間以内に報告することとなった。

5.10 返送異議について

村上編修長補佐から資料 23-4-7-1～23-4-7-6 について説明があった。審議の結果、23-4-7-1 については 23-4-7-5 の回答書どおり承認、23-4-7-2 については内容をもう少し吟味して次回主査会で最終判断、23-4-7-3 については提出直後なので次回主査会で検討することとなった。

5.11 主査会議の規程について

竹下編修長より資料 23-4-9,23-4-9-2 について説明があった。他部門の編修委員会に相当するものが、D 部門では主査会と編修広報委員会に分かれている。これまで、特に主査会

の規程が無かったので整備したい。編修長補佐役の継続性を確保するために、副編修長を置くことにした旨の説明があった。決定は、次回主査会で行う。

5.12 その他

竹下編修長から、英文誌パワーエレクトロニクス特集号について、特集号を成立させるために査読体制強化の依頼があった。特に依頼論文については必ず期限までに結果を出して欲しい旨の要請があった。

また、次回主査会はできる限り参加者が多くなるよう調整の上、12月中下旬に市ヶ谷周辺で開催予定とする。

以上